

# もっとディープに。 ひやまの夜旅。



昼とは違う、まちの顔。  
個性あふれる酒場で旅に深みを。  
一期一会の思い出を。

ネオンを辿って夜のまちに繰り出すのも旅の醍醐味。地元のお客や名物マスター・ママに出会い、観光地とは異なる、さまざまなまちの表情に触れることができる。たとえば江差町の新地町エリア。

ここは江戸時代の花街文化を起源にする江差町の繁華街。北洋漁業が活況だった昭和の時代までは飲食店が軒を連ね、クラブにキャバレー、スナック、バーのネオンが煌々と通りを彩っていた。現在その数は往時の1/3ほどだが、個性あふれる店がそろい、夜ごと地元客で賑わっている。ぜひ旅のスケジュールには「ひやまの夜」も組み込んで、ひやま旅をディープに楽しんでほしい。



### ネオン街の生き字引 ①

江差町の歴史・文化を深く愛し、多くの書籍を出版。「まちの生き字引」とも言われる松村隆さん。酒場もこよなく愛し、約60年、飲み歩きを楽しむ。



### ネオン街の生き字引 ②

新地町の老舗『バブ ボナベティ』のマスター岩井静志さん。鎌倉や東京で経験を積み、江差町で開店して約40年。ナポリタンが名物の人気店。



### 「北洋漁業」とは

ベーリング海・オホーツク海を含む北太平洋で行われる漁業で、明治時代から出漁が活発化、戦中・戦後に途絶えるが昭和20年代に復活。出港地には母船と船独航の各船団が大挙し、船乗りが1週間ほど滞在するため繁華街は大いに賑わい、また、船に積み込む食料や日用品もそこで調達するため、各街の経済に大きく貢献していた。漁で獲るのは主にサケ・マス。昭和50年代以降、衰退する。



第1回江差追分全国大会の様子



追分道場のある江差追分分館



江差追分分館内・唄の基本譜

### 「守り教え、歌い継ぐ人」

8歳から江差追分をはじめ、プロの歌手として活躍する木村香澄さん。中学時代には元YMO・細野晴臣のアルバムで、高校時代には宇崎童童作曲の組曲で江差追分を唄った経験も持つ。なお、全国大会優勝は高校2年生のとき。江差町では歌手活動の傍ら、自身のカフェ内に江差追分支部「紫世会」を立ち上げ、同会の師匠の一人として指導にあたる。

●歌手・江差追分師匠／木村香澄



## 北海道遺産 江差追分

### ●江戸時代～現在(江差町)

数ある民謡の中で、最も難しく憧憬的であり「民謡の王様」とも呼ばれる江差追分。この唄は、江戸時代、北前船がもたらした信州の馬子唄と江差の風土が混ざり合ってきたもの。いま、その人気は世界に及び、江差追分は海外にも支部を持つ。



開陽丸記念館(江差町)



館城跡(厚沢部町)



官軍上陸の地碑(乙部町)

## 北海道遺産 五稜郭と箱館戦争の遺構

### ●明治元年(函館市・江差町・厚沢部町・乙部町・上ノ国町)

1868(明治元)年、鷲ノ木(現在の森町)に上陸した榎本武揚ら旧幕府軍は、五稜郭で蝦夷地領有を宣言するも新政府軍の反撃に屈す。南北海道は、旧幕府軍と新政府軍による戊辰戦争の最終決戦地。各町ゆかりの地には激しい戦いの痕跡が残されている場所もあり、今も静かに戦場の記憶を伝えている。

●厚沢部町教育委員会／富塚 龍

### 「学芸員が教える注目ポイント」

松前藩が明治元年に松前城に代わる藩の拠点として新たに築城した「館城」。明治元年の冬に完成を迎えますが、その直前に始まった箱館戦争に巻き込まれ完成から約ひと月で燃やされ落城。火をうけた痕跡のある礎石から、時代の節目に翻弄された城の悲壮が感じられます。現在館城跡は桜の名所となっています。

乙部町域には大きなポイントが2つ。それは「始まりの終わり」と「終わりの始まり」の地であること。前者は榎本軍が攻め寄せ、松前軍が最後に降伏したのが乙部町域であること。後者は反撃に出た官軍が、逆襲上陸の地に乙部村(現乙部町元町)前浜を選んだこと。唯一「官軍上陸の地」の碑が建てられています。

●乙部町教育委員会／藤田 巧